

岩手県野田村の支援・交流活動報告（2011年8月17日）

今日の野田村の天気予報は曇りのち雨。弘前は小雨が降り始めていましたが、「野田村は大丈夫だろう」という比較的楽観的な観測のもとに、いつもより若干遅れて5時55分頃弘前を出発しました。バスが高速道路を進んでいくと、次第に雨脚が強くなっていきます。高速道路を降りても一向に止む気配がありません。進行方向の空もどんよりして、「もしかすると今日は活動ができないかも…」という不安が次第に強くなっていきました。道の駅「おおの」でバスを降りた際には小雨で「何とかなるかもしれない」と一瞬期待しましたが、バスが出発する頃には再び雨が…。バスの中も不安感で一杯という雰囲気でした。しかし、野田村が近づいてくると、雨脚が徐々に弱まりだし、道路も乾いていきます。結局、野田村に到着した際には雨も上がり、何とか活動を開始することができました。

今日の参加者は学生17人、市民21人、教員2人の計40人。男女比は男性25人、女性15人でした。夏休み中ということもあって、学生の参加者も比較的多く、初めての参加者も15人に上りました。この中には、「ゼミ合宿」代わりに参加した李先生のゼミ生の皆さんも含まれています。野田村災害復興ボランティアセンターによると、この日は、団体での参加は「チーム・オール弘前」のみ、個人の参加者が28人ということでした。



小雨の降る中、道の駅「おおの」で



活動場所から眺めた海の様子

今日の活動は40人全員が1ヶ所で行いました。もともと食堂や民宿、民家が集まっていた海に程近い場所です。建物はまったく残っておらず、雑草が生い茂っている状態でした。今日の任務は、ここの瓦礫を撤去することです。作業範囲が広いので、まずは40人を何段かになっている土地の一番上段を担当するグループと、道路に面した一番下段を担当するグループの2つのグループに分けました。

私が参加した道路に面した場所は、一部は背丈ほどに伸び、かなり根を張った雑草が一面に広がっている状態でした。そこで、まずは瓦礫撤去の妨げとなるこの雑草を抜く作業にかかります。かなりの時間はかかりましたが、何とか午前中には雑草の大半が処理でき

ました。雑草を片付けてみると、それまではあまり見えていなかった大きな石や木片、ガラス片などが姿を現しました。

お昼は、お弁当を注文して、今回も「かまどのつきや」でいただきました。おにぎり、卵焼き、焼き魚、煮物等を中心としたお弁当と、布海苔の入ったお吸い物、甘いトマトなどをご馳走になりました。



お昼のお弁当



「かまどのつきや」での食事風景

午後は、雑草の残りを片付ける雑草処理班と、雑草が片付いたところの瓦礫を片付ける瓦礫撤去班に分かれ、作業を行います。最後は、雑草処理班も合流し、全員で瓦礫の撤去をしました。帰りのバスの中の感想でも、「想像していた以上に地味で変化が見えにくい作業だった」という声も聞かれる程、かなり地味な作業でしたが、みんなで声を掛け合いながら、無事に活動を終えることができました。瓦礫撤去はまだまだ時間がかかりそうですが、雑草の大半が片付いて土地がきれいになったので、「雑草がなくなって海が見えた時には達成感があった」「目に見えてきれいになって嬉しかった」という感想も聞かれ、かなり充実感・達成感を味わえた活動でした。



作業開始直後、雑草が生い茂っている状態



作業終盤、雑草がきれいに片付いた状態

もう一つのグループは、私たちのグループと同様雑草を片付けると同時に、流木がかなり残っていたので、それを撤去することと、枯れた木が残されたままだったので、その木を根元から掘り起こすという作業をおこなっていたそうです。



活動風景① 雑草を片付けている様子



作業風景② 瓦礫を撤去している様子

記録を見たところ、今日活動した場所は、お盆前にすでに3日間他のグループが入って作業をしていたようです。そのグループの作業のお蔭で大きな石や流木は片付いていましたが、まだまだ細かな石やガラス片などはかなり多く残っています。感想にも「“思いの櫛”を次に繋げて、この場所をきれいにしたい」とありましたが、先に作業をした3グループの後を継いで私たちが活動し、そして次のグループに繋げて、ボランティアに参加しているいろいろな団体・個人の力が一つになってこの場所をもとの姿に戻せるといいなと思いました。

心配した天候ですが、途中何度か小雨がぱらついただけで、何とか最後まで持ってくれました。午前中はかなり暑く、「前半はばてた」という人もいました（それでも、先週の参加者からは「先週に比べると天国だった」という声も聞かれました。先週は飯先生のご報告にもあったように、かなりきつかったようです）、お昼を境に空気を入れ替わり、午後は気温も高くなく太陽も照りつけず、作業のしやすい天候でした。これまで10数回の活動の中で、一度も活動が雨等で中止になっていないというのは、本当に天候に恵まれているなと感じています。

今回活動をした場所には、新しい花が供えられていました。今回ボランティアに参加された方が聞いた話によると、ここに住んでおられた方の何名かが津波の犠牲になられたとのこと。これまで活動した場所でも、もしかすると犠牲になった方がいたのかもしれませんが、お供えされていた花と実際にそこに住んでおられて犠牲になった方の話を聞くと、津波の恐ろしさが、これまでよりもリアルに感じられるようになりました。今回の活動場所は目の前が海だったのですが、「海が静かできれいで、津波を想像することができなかった」という感想が聞かれたように、今日の海は非常に穏やかな表情を見せていました。

この穏やかな海が豹変するという自然の怖さを改めて感じたような気がします。

今日も、学生・市民が一緒になって、「チーム・オール弘前」として、いい雰囲気の中で活動ができたと思います。学生からも、市民の方々の活動に刺激を受け、「若い者として恥ずかしくなった」という感想が聞かれました。普段はなかなか交流する場の少ない市民の方と学生が交流しながら一緒に活動できるのも、このチームの大きな魅力だと思います。今回活動した場所一つとっても、まだ何日間も作業に入らないと到底片付くものではありません。まだまだ「チーム・オール弘前」としてやるべきことは多いと感じました。これまでのようないい雰囲気の中で、「チーム・オール弘前」として息の長い活動を続けていきたいと思っています。

(担当 平野 潔)